

▽緋鹿子草紙

帝キネ現代映畫

脚色並監督者 大森 勝氏
撮影者 岡本 静夫氏

主要役割

よ組の頭銀吉	藤間 林太郎氏
伊勢屋善兵衛	吉田 豊作氏
その娘	高津 愛子嬢
清三郎	里見 明氏
株屋谷川三四郎	小島 洋々氏
銀吉女房おつた	歌川 八重子嬢
おつたの姪お蝶	松葉 笑子嬢

解説——「未來の大臣」について大森勝氏が監督製作した現代劇である。
略筋——山治の番頭清三郎は美しく律義者として下町の若い女達から騒がれてゐた。中にも清



寫「緋鹿子草紙」帝キネ大森勝氏作品。
右より松葉笑子嬢と小島洋々氏

三郎の伯父でよ組の頭をしてゐる銀吉の女房おつたの姪お蝶は一しほ彼を戀してゐた。しかし清三郎は伊勢屋の娘靜枝と戀を語らふ仲であつた。ふとした事から清三郎は株屋谷川の妾お蘭に誘惑されそれ以來彼の心には伯父の忠告もなく靜枝の姿もなく日夜お蘭との逢ふ瀬を重ねてゐた。これを知つた谷川は怒り清三郎を傷つけた。清三郎は憤然として悪夢より醒め銀吉の家でお蝶の手厚い介抱を受けてゐた。其頃靜枝は清三郎を思ふのあまり病床にあつた。子を思ふ伊勢屋善兵衛から事情を聞かされたおつたは心を鬼にして姪のお蝶をさとした。やがて清三郎と靜枝の結婚の夜は來た。お蝶はすべて諦らめてその身を急流に投じた。戀を失つたお蘭は復讐の爲め伊勢屋へ放火した。お蝶の書き置きを見て驚いてゐた銀吉は火事と聞きその職務の爲めには憐れなお蝶も打捨くなければならなかつた。漸く鎮火して人々の集つた時には清三郎の姿も靜枝の姿も見えなかつた。たゞ一同は悲嘆の涙に暮れるのみであつた。